

幸運にも標記海外研修に参加する機会を得た。1 週間ほどの研修期間であったが、最新の分子イメージングの動向、7T-MR 装置のガントリ内移動体験、各種研究所見学など世界最先端の研究について、実際に lab で研究に取り組んでいる研究者から講義や説明を頂き、あまりのリアルさに対する衝撃と、その現場にいられることの感激を今でもかみしめている。

本研修を通していくつかのテーマが与えられており、それらについて考えを述べる。

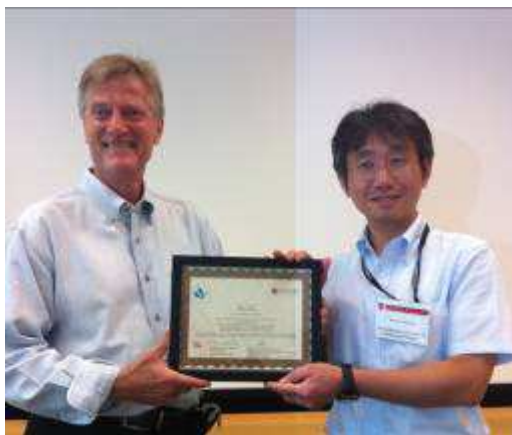
はじめに「学会の国際化」についてである。私は個人の資質がその社会の体を表すと考えている。学術研究という括りでいえば、海外で活躍する方が増えそれが普通のこととなり、そのような研究者が集えばおのずと国際的な学会になると思う。自分自身を振り返り、今回の研修で気づかされたことがある。それはこれまでも想像していたことだが、目の当たりにして実感したことだ。それは海外で活動することはだれにでもチャンスがあるということである。この体験は自分自身の一番の収穫であったと思う。そしてそのチャンスを自分のものにするためには、自分自身が努力し続けることが大切であり、充実感を得られるがその厳しさも受け入れることを研修の合間に感じ取れた。Course director であり研修中大変お世話になった Moseley 博士からは、世界で通用する技術を常に探して、見つけ出し育て上げて、世界で闘う力を身につけることの大切さとおもしろさを、日本のサブカルチャーに例えて教えてくださった。今までの研究に対する考え方や取り組み方と特段変わりはないのに、説明の切り口の違いで新たな意欲が沸き、不思議な感覚を得たことを思い出す。国際化によるひとつの醍醐味は、このような新たな感覚に触れることなのかもしれない。

あらたな気づきのきっかけはこの研修であり、日本放射線技術学会（以後 JSRT）のおかげである。研修中、本研修は開催から 7 回目を迎えたと聞き、準備段階も含めおよそ 10 年前から現在の JSRT および学会員が進むべき方向を見定めていたことに心から敬意を表したい。学会の国際化に関する活動はすでに 10 年以上も前から進められていたことになる。これら学会の中長期的な視野の元、学会員ひとりひとりが海外での活躍を志し、それが不可能ではないことを実感して行動する事が学会の国際化に結びついてくるのではないかと考える。

次に「学術大会のあり方」について考える。学術大会は学術研究の発表の場であり、議論を深め真理を求める機会である。JSRT は放射線技術学に関する様々な領域の研究を議論する場であり、その技術革新はまさに日進月歩である。また他学会も含めた長年に渡る放射線技術学に関する研究活動とその実績により医用画像の読影を補助する能力が認められつつあり、それに応えるべくさらなる研鑽と覚悟が求められている。放射線技術学に磨きをかけるのは学会員であり、学会員個々の活動の集大成である学会活動が社会からの評価に影響すると考える。そのためには自分の立ち位置と今後どうあるべきかを常に考え、あらためてなぜ研究活動をするのかの理念を肝に銘ずることが重要だと考える。そしてそのためにどうするのかを道筋立てることで、おのずと今後目指すべき学会のあり方がみえてくるのではないかと思う。その手段には最新の撮像技術や画像処理技術、そしてそれらの背景を身につけるために教育が重要な役割を担う。また海外の放射線技術科学分野の情報を共有できる空間があることで学会の魅力がさらに向上すると考える。

先遣の目を持ち、世界の動向に目を向け、中長期的な計画から継続性を持って事業にあたることが重要であると再確認できた本研修であった。放射線技術科学に関する研究は世界的に行われており、日進月歩の勢いを感じる。その成果は世界中で共有することができる環境が整えられており、地球上に住むすべての人がその恩恵に預かる権利を有する。私は今回の研修で影響を受けた様々なこと、見聞きしたこと、感じたことを自分の与えられた環境で自分の立場を弁え共有するよう努めたいと考えている。

最後に、本研修を通して様々な気づきの機会を与えてくださいました Stanford 大学の Moseley 博士をはじめ諸



先生方に心から感謝申し上げます。米国の保険事情の紹介やこれからの放射線技術科学に関するビジョンの一端をお示しいただいた GEHC-J 担当者の皆様に御礼申し上げます。研修中は世間知らずの小生に対し派遣団の末席に加えてくださいました参加者皆様に重ねて御礼申し上げますとともに、研修中の引率はもちろんのこと、研修前から滞りなく対応してくださいました金沢大学田中利恵様にあらためて感謝の意をお伝えします。そしてこのような海外研修の機会を与えてくださいました日本放射線技術学会に心より御礼申し上げます。